



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 第10回 通常総会

### 2014年度事業計画案、活動予算案承認



5月10日(土)午後2時より、日光市民活動支援センターにて、第10回通常総会を開催しました。出席正会員33名(うち表決委任者23名)により、会の成立を確認。昨年度事業・決算報告、本年度の事業計画および予算が承認され、会議を終了しました。今年度の事業計画は次のとおりです。

(1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営(予算:2,266,400円)

ゆったりと過ごせる時間と空間を確保し、子どもたちの意見や要求をもとに活動する。雑談会、音楽鑑賞、ミーティングなどによりコミュニケーションをはかる。個別学習援助を充実させる。

子どもの居場所 月～金曜日:12:30～16:30

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発(予算:70,000円)

新たな学習プログラムの調査、研究開発。地域、学校とも連携し、教材開発を行う。発達障がいを持つ子などへの学習援助。

学びサポートひろば 毎週金曜日:17:00～21:00

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援および情報提供(予算:110,000円)

ホームページやメールによる学びの支援と活動紹介。

(4) 教育や福祉についての相談、情報提供 および(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業(予算:34,000円) 会報作成(200部)、教育や福祉についての相談、子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動(予算:20,000円)

引きこもり子を持つ親の会との話し合い、障がいのある人の自立に関する相談

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動(予算:30,000円) 自然観察、畑作り、川遊び等、ボランティアなどの協力によるイベント開催や環境調査。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営(予算:5,316,663円) 相談支援事業、指定特定相談支援事業(週5日:月～金、8:30～17:15)

昨年度から準備してきた、ふたつの事業が本年度から始動しました。ひとつは、本年1月の臨時総会で新項目承認をいただいた事業(8)です。「指定特定相談支援事業・さくらそう」は5月1日から始まっています。前号に事業の詳しい説明がありますので、興味をお持ちの方はご覧ください。

もうひとつは「環境研究班」です。「今市の水を守る市民の会」と協力した「川むしたんけん隊」などの自然体験・調査とともに、子どもたちの健康を守るため、自然環境に散らばってしまった放射能の調査測定を行っていきたくと考えています。

「子どもたち一人ひとりの自主性が尊重され、明るく生活でき、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりと学びの支援」という「なんにわ」の活動理念に、いっそうの、ご援助、ご協力、ご助言をよろしくお願いいたします。(手塚)

## 目次

第10回通常総会報告	1
川むしたんけん隊	2
さくらそう便り	3
なんにわ環境研究班報告	3
活動日誌	3
こんな本はいかが? 25	4

## 居場所のひとつ

ミルクレープを作りました。何枚もクレープをつくり、あいだに生クリームをはさみ、ケーキのようにしました。久しぶりの「作って食べよう」でした。「料理なんてまったくしない!？」という利用者さんも参加。とてもおいしく作ることができました。(N)



# 川むしたんけん隊

5月24日(土曜日)午後1時30分から  
千本木行川橋下流にて



天气に恵まれた「川むしたんけん」でした。千本木行川橋下流で子どもたちが沢山見つけてくれたのは、カワゲラ・ナガレトビケラ・ヒラタカゲロウ・ヘビトンボ・ウズムシなど、圧倒的に「きれいな水」に棲む生きもの達で、この地点では「水質階級Ⅰ」と大威張りして言えることが証明されました。

ここから上流には集落やクリーンセンターがあるのですが、西側の山からの沢水が何か所からも流れ込んでいますし、谷間の流れは落差があるので水の中に酸素がふんだんに溶け込まれているのでしょう。広葉樹が生きもの達の栄養源になっていることも大いに関係がありそうです。今回の場所は初めてでしたが、これからも皆さんと一緒に注目していきたい所となりました。次回もぜひここで行えたらいいですね。

現地にお住まいの木村順一様には土手の草刈など、準備段階からたいへんお世話になりました。子どもたちのためにとご協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。次回は昔の遊びや行川のことなど、ぜひ木村さんのお話をお聞きしたいと思いました。その時はどうぞよろしくお願いたします。

千本木行川橋下流

天気：晴れ（気温 24℃、水温 18℃）

川幅：約20m、水面幅：約10m

生物を採取したのは右岸～川の中央

生物採取場所の水深：5～20cm

流速：毎秒40cm

川底：礫（れき）

水の濁り：なし、におい：なし きれいな水  
見つけた指標生物

（水質階級Ⅰ）ウズムシ、カワゲラ、ナガレトビケラ、ヒラタカゲロウ、ヘビトンボ

（水質階級Ⅱ）コオニヤンマ

その他、カゲロウ、トビケラ、カワゲラの仲間が多数、トンボのヤゴ、カジカカエルの卵塊、ドジョウなどがたくさん見つかりました。

（今市の水を守る市民の会・塚崎）



写真上：下流側から撮影。後方に千本木行川橋が見えます。  
写真下：「子どもの居場所」に戻り、塚崎さんのお話を聞きました。

## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市平ヶ崎）

日時：毎月第2月曜日（午前10時～12時）

参加費：300円（お茶代）

次回の日程はお問い合わせ下さい。

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。（連絡先：090-3227-7079）

- 4月21日 (月) 通信・なんとなくのひろば (第35号) 発行
- 4月27日 (日) ベリー会：11周年記念講演会
- 4月28日 (月) 情報交換会 (第3小学校)
- 5月 1日 (木) 指定特定相談支援事業「さくらそう」開所  
栗原理事、日光市障がい者相談支援センターに出向
- 5月10日 (土) 理事会 (第50回)  
通常総会 (第10回)
- 5月12日 (月) 茶話会 (第48回)
- 5月18日 (日) フェスタmy宇都宮(城址公園)  
「われらのふるさと」手伝い
- 5月23日 (金) 生徒指導担当者連絡会議 (市教委) 参加
- 5月24日 (土) 川むしたんけん隊 (千本木・行川)
- 5月24日 (土) ワカモノフェスタ実行委員会
- 5月25日 (日) ベリー会：月例会
- 6月 9日 (月) 茶話会 (第49回)
- 6月17日 (火) つくって食べよう！ ミルクレープ
- 6月29日 (日) ベリー会：月例会、学習会
- 7月 1日 (火) セミナー「変革期を迎える精神障害者雇用と医療機関に望まれる対応」参加  
講師：相澤欽一、場所：とちぎ健康の森
- 7月8日 (火) 9日 (水) ジャガイモ収穫
- 7月 9日 (水) ワカモノフェスタ実行委員会
- 7月14日 (月) 茶話会 (第50回)
- 7月15日 (火) つくって食べよう！ ジャガイモ料理 (みんなそれぞれ違ったもの)
- 7月25日 (金) ジャガイモ収穫



さくらそう (5月撮影)

## さくらそう便り

市役所1階生活福祉課にある「日光市障がい者相談支援センター」に出向して3ヶ月が経ちます。毎日、いろいろな方から電話、メールがあります。(当事者、家族、家主、民生委員、関係機関…)

とくに最近、新規で増えているのが、老親と暮らす50～60才代無職の子のケース。聞くと、小中学校時代に勉強ができなかった…勉強はできたけど人との付き合いが苦手でいじめられていた、学校を休みがちだった、働いたが長続きせずにひきこもっている、職を転々としている。気持ちが落ち込んで精神科クリニックに行ったら市役所に相談するように言われた…

本人が窓口に来て、困り感を訴えた場合は私達も支援しやすいです。「もしかしら、発達障がいがあるのかも？調べて、手帳を取り、障害枠で職を探しましょう」と次に進めます。障がいの有る無しに関わらず、自分のできること、できないことがハッキリしていることが大切です。支援を受けるには、市役所への申請が必要。問題を感じたら、相談支援センターにお問い合わせください。

生活福祉課内 0288-22-8522 (栗原)

## 「測って守る」

4月より、環境研究班が試料を集め、土壌用の放射能測定器を持つ市役所環境課に依頼して測定を続けています。短く切った足場用鉄管を地面に打ち込み地表から5cmの土壌を採取します。一カ所で7点の採取を行うルールとしています。写真はハンマーで打ち込んだ鉄管を取り出したところ。3年前の状態が保存され、かつ真上に樹木や建築物がない場所を選んでいきます。一週間にほぼ4点のペースでサンプルを採取。精度を得るため、十分に乾燥させます。この方法で7点採取した土をまとめて乾燥させると250～400gくらいになります。梅雨の時期はよく乾かず、仕方なくポータブルレンジで加熱したら、悪臭が…。無理な乾燥は駄目、天日乾燥が一番です。データの蓄積により見えてきたこと、今後の問題点など、情報交換のためのミーティングを定期的を実施しようと準備を進めています。興味のある方、お問い合わせください。(環境研究班：三上、手塚)



土壌採取用具の希望者は「NPOなんとなくのこわ・環境研究班」にご連絡ください。電話(090-3227-7079)またはメールでお願いします。

鉄単管7点採取によるサンプルは、単位面積あたりの放射エネルギーに換算でき、この地域にどれだけの放射性セシウムが降ったかを知るための資料となります。

土壌の採取方法の詳細および記録用ラベルは以下に置いてあります。

<http://www.nantonakuno.net/kkg/sampling.pdf>

<http://www.nantonakuno.net/kkg/ramlabel.pdf>

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください。

http://www.nantonakuno.net/



## こんな本はいかが？ その25 河合隼雄さんの本

今回は、心理臨床家の河合隼雄さんの本を紹介します。河合さんは、2007年文化庁長官在任中に病気のため他界されました。河合さんはたくさん著書を残しておられますが、その語り口のやさしさに心惹かれます。子育て中の保護者の皆さんや「こころ」に関心のある方には、是非読んでいただきたい本ばかりです。その中の数冊を紹介します。（白井）

### ◎「河合隼雄の“こころ”」—教えることは寄り添うこと— 小学館 2008年

この本は、教育関係の月刊誌に連載されたものをまとめたものです。学校の先生向けに書かれていますが、誰が読んでも、じんわりと心に届く言葉に出会うと思います。この本の第二部には「親子で読みたい本リスト」児童書44冊、絵本48冊が紹介されています。

### ◎「Q&Aこころの子育て」—誕生から思春期までの48章— 朝日新聞社 1999年

この本は、誕生から思春期までの48の質問に対して、河合さんが答える形で書かれているので、目次を見て読みたいところから読んでいくのもいいと思います。河合さんが「はじめに」の項で書いていますが、「日本人は“標準病”に罹っている人が多く、そのために無用な心配をしたり、標準の押し付けで子どもの個性を壊したりすることが多い」のだそうです。確かに“普通”であることを求めすぎているかもしれないと考えさせられます。

### ◎「こころの処方箋」 新潮社 1992年

この本は、雑誌への連載エッセイを中心にまとめられた本です。目次だけを読んでいても面白い言葉が並んでいます。たとえば、「人のこころなどわかるはずがない」「100%正しい忠告はまず役に立たない」「理解ある親”をもつ子はたまらない」「説教の効果はその長さで反比例する」「健康病が心身をむしばむ」「道草によってこそ“道”の味がわかる」などなど。

どれを読んでも面白いです。ふっと自分のしていることを振り返ったりもします。

### ◎「ココロの止まり木」 朝日新聞社 2004年

この本も、雑誌への連載エッセイをまとめたものです。このエッセイは70代になった河合さんが綴ったものなので、老いることや人生についての深い言葉が満載です。この中の一つのエッセイが「夫婦」について書かれています。河合さんは「人間のいろいろな関係の底に友情がある」といい、夫婦は「運命的なものを感じてつながっているうちに、夫婦の間に友情の深い絆ができる」と書いています。この言葉は、私には深く響きました。

## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員：43

賛助会員：19

団体会員：4

入会金はありません。

年会費（一口）

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円

団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願っています。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



## なんとなくのへや

夏目漱石「こころ」が新聞小説として連載が始まってから100年過ぎたという。4月から、当時を再現したスタイルで朝日新聞朝刊に掲載されている。毎朝歯を磨きながら新聞小説を読むのは、生まれてはじめてかもしれない■話の展開が頭の片隅に残り、ふと思い出してあれこれ考える。一気に読んだときに比べて細部のエピソードが気になるのは、少しずつ読まされる効果なのだろうか■漱石に「坑夫」という小説がある。しばらく前、「評判は良くないが読むとよい」と何かに書いてあった吉本隆明の評論を見て漱石全集を手にとった。取るには取ったが全集本は重くて持つ手がつらい。途中で止めて放ってあった。今回、岩波文庫が改版されたので購入■近頃の岩波文庫は活字が大きくなり読みやすい。なんと鉱山の舞台は足尾ではないか。臨場感たっぷりのブラック現場潜入ルポのような雰囲気がある。漱石は都会人。日光や足尾に来たという話は聞いたことがないし、いったいどうやって調べたのだろうと不思議に思いながら読み進め、その種明かしは後記で知った。高等遊民らしき若い主人公の鉱山労働者への偏見や嫌悪感が繰り返し描かれ、差別語が頻出し、注意深く読まないと誤解を招く。しかし最後まで読み通すと、原発問題まで見通したような確かな漱石の眼を感じる。（T）